

## 平成26年度行政評価委員会 議事要旨

会議名	葛飾区行政評価委員会 第1回第二分科会
開催日時	平成26年7月11日(金) 午後3時から5時
開催場所	葛飾区役所本館4階 教育委員会室
出席者	【委員6人】 足達分科会長、金子委員、村上委員、望月委員、上原委員、長谷委員 【欠席委員1人】 町田委員 【区側10人】 指導室(指導室長、指導室職員2人) 事務局(政策経営部長、経営改革担当課長、事務局職員4人)

### 会議概要

#### 1 開会

(分科会長より欠席者の連絡、傍聴人の確認、資料の確認を行った)

#### 2 事務事業の概要及びヒアリング

##### スクールカウンセラー派遣事業

(指導室より事業の概要について説明した後、質疑応答)

##### (1) 基本情報

A委員 中学校のスクールカウンセラーは、12校が8時間、12校が4時間とのことだが、これは、1年間変わらないのか。

指導室 1年間変わらない。

A委員 区と都のカウンセラーは同じ人か。

指導室 その人の勤務によるが、同じ人もいれば、別の人もある。

B委員 活動内容は、学校によって対応の仕方が異なる場合があるのか。

指導室 基本的な職務の内容は同じだが、学校によって子どもの状況も異なるので、一律の対応ではなく、力点が変わることはある。

分科会長 保田しおさい学校について説明願いたい。

指導室 千葉県鋸南町にある寄宿舎のある全寮制の学校である。かつては、ぜん息、肥満、虚弱などのお子さんが健康改善のため学習していたが、現在は、心身のメンタル面の課題を抱えたお子さんも通っ

ている。

小学3～6年生が対象で、途中から保田しおさい学校に入るお子さんもいる。親元を離れて、2階が宿舎で1階が学校になっている。

C委員 今、何人ぐらい在籍しているか。

指導室 卒業までずっと通っているわけではないが、26年5月現在、3年生が3名、4年生が5名、5年生が11名、6年生が6名の25名である。

C委員 週1回、スクールカウンセラーが行っているのか。

指導室 葛飾から通っているのではなく、地元の資格をもっている人に行っている。

A委員 カウンセラーが地元の人であるというが、児童が葛飾に帰ってからのフォローについては把握しているのか。

指導室 大きな課題となっている。児童が中学生になって葛飾に戻った際に不登校となってしまう場合もある。そのため、カウンセラーが一同に会して連絡会を行い情報共有を図るなどの対応をしている。十分ではないが、カウンセラーが中学校へ来て情報提供もしている。

## (2) 実績情報

A委員 不登校の数値を口頭で説明されてもよくわからないので、表などにして示していただけませんか。

指導室 次回、推移についての資料を準備したい。

D委員 生徒数の推移がわかる数値はないのか。

指導室 平成23年度は、2万9,700人、24年度は、2万9,300人、25年度は、2万9,000人、26年度は5月1日現在2万9,000人で推移している。

D委員 不登校児童・生徒数の小・中学校別の人数はわかるのか。

指導室 次回、資料を用意したい。

分科会長 相談件数は、3万件もあるのか。

指導室 全小・中学校の述べ件数である。全学校から報告書を提出してもらったもの。中学校24校で1万1,311件である。

分科会長 学校が楽しくてしょうがない子どもは相談に行かないのでは。

指導室 内容は、不登校に限らず、気軽にコミュニケーションできるお兄さん、お姉さんとしての相談もある。さらに、保護者からの子育てに関する相談や教員からの相談も含まれている。

- E委員 不登校の子が約300人であると、1人のお子さんが100件も相談しているということなのか。
- A委員 不登校の子だけが相談しているわけではないので、そうではないだろう。
- D委員 不登校の要因は把握しているのか。
- 指導室 要因は様々であるが、複合型が多い。家庭の環境に起因しているものや学業に付いていけない、対人関係の問題等もある。何が一番の問題であるか専門であるカウンセラーが面談等を通じて明らかにしていく。
- C委員 成果指標である不登校児童・生徒数の実績は253件で、目標が230件というが、実績というのは、何を元に言っているのか。
- 指導室 30日以上不登校で欠席している児童・生徒の人数である。本来であれば、目標は0にしなければならないと思っている。230という目標が妥当ではない、とは思っているが、実績から見て0にするというのはなかなか難しいものがある。そのため、前年度の実績から減らしていこうということである。
- C委員 人のことだから、0にするというのは難しいだろうが、一日でもいいから学校に来てもらうことが大事なのではないか。
- 指導室 不登校が30日に達してしまったら、不登校の数としているが、その後、復帰している子もいる。一番の成果は、一日でも登校してもらえることである。
- A委員 授業を受けずに、保健室などに来ても出席となるのか。
- 指導室 出席・欠席の扱いは校長の判断となるが、子どもたちがいる時間に来れないお子さんが授業時間外に来て教員と話をしたり、学習をすることもある。
- 分科会長 実績値の増減はわかるのか。不登校になったが、復帰したり、新たに不登校になったお子さんの数は把握しているのか。
- 指導室 数値が確認できれば、次回、資料を準備したい。

### (3) コスト内訳

- A委員 人件費は一人700何十万円もの職員が担当しているのか。
- 事務局 職員の平均単価が780万である。
- C委員 カウンセラーは、各校に1人いるのか。
- 指導室 1校に1人ではなく、2人の場合もある。
- 分科会長 別紙2の中学校と小学校のカウンセラーの単価がかなり違っていると思うが、何か規程があるのか。

- 指導室 中学校は、都費に準じているため、同等となっている。小学校は、区独自で実施していたため、区の他の非常勤職員との均衡を図るため、このような単価となっているのが実情である。
- A委員 これだけ違えば、中学校の方がよいと思うが、小学校のスクールカウンセラーがいなくなってしまうのか。
- 指導室 小学校も現在は、都費になったので、中学校と同程度になっている。
- A委員 今まで区費で小学校のスクールカウンセラーをやっていた方たちはどうしているのか。
- 指導室 大半の方は、都の選考を受けて、都費のカウンセラーになり、本区や本区以外のカウンセラーになっている。また、教育センターなどで心理相談員として活躍している方もいる。
- C委員 コストの問題は成果主義であると考え。資格があるからではなく、成果をみて、費用を払うというしくみができないのか。時給がいくらかということよりも成果をあげなかった場合のことなどを考えるべきではないか。

#### (4) その他

- C委員 スクールカウンセラーは、本当に必要なのか。本来は、先生が子どものカウンセラーの役割を担うものであると考える。
- B委員 確かに、先生と子どもの関係も大切であると思うが、先生との相性もある。担任の先生以外に救いが求められることもある。
- 分科会長 スクールカウンセラーは、いつごろからいるのか。
- 指導室 平成9年に文部省の研究で奥戸中学校で始まった。  
今の教員免許には、心理士の単位はないため、夏季休業中などに研修を受けて、力をつけてもらうこともある。また、カウンセラーは、年2回、学校長と教育委員会で評価している。また、カウンセラーの資質に疑問が生じた場合は、1年ごとの任期の更新をしない。
- D委員 カウンセラーは、どのような人が多いのか。
- 指導室 臨床心理士は、大学院で専門課程を修了しないと入れないため、20代後半以上で、ベテランは50代となる。また、女性が多い。
- D委員 相談の内訳は、家庭の問題や経済的な問題、学業に関わる問題等、多種多様にわたっていると思われる。対応にも限界があるのではないか。メンタルを中心にやっていると思うが、家庭環境なら民生委員、経済的な問題であれば、産業部門などとの連携が必要で

はないか。

- 分科会長 区は、いじめに本気で取り組みたいと思っているのか。
- 事務局 区では、教育委員会で取り組んでいるところである。
- E委員 以前、学校評議員をやっていたが、不登校などの人数は教えてくれるが、詳しい中身はわからなかった。また、校長が変わるとすぐ変わる。スクールカウンセラーは、必要だと思うが、地域には見えてこない。いついつ来ているとは言われるが、平日に学校に行ける人は少ない。年に1回でも会合で顔合わせされるとよい。保田しおさい学校は、以前のイメージでは肥満の子が多いと思っていた。そのようなこともオープンに地域に教えていただきたい。
- 分科会長 私立の学校にもスクールカウンセラーはいるのか。
- 指導室 私立にも入っている。病院の院内学級などとかけもちをしている人もいる。相談内容として、いじめは、本人からは言いにくいいため、学校によっては、スクールカウンセラーが全員面接を実施しているところもある。誰かに相談できるという機会があることが大切である。相談しやすい関係をつくっていく。
- E委員 養護教員がカバーすべきではないか。
- 指導室 養護教員がカバーしているところは多いが、本来業務が別にある。保健室登校をしている子どもについては、スクールカウンセラーと養護教員とで情報共有をしている。
- A委員 個人的には、教育にお金を使うことはよいことだと思うが、必要な部分に使ってほしい。民生委員・児童委員として、夏休み前に学校訪問をしているが、先生たちは、非常に忙しい。朝7時から地域とのつながりで22時近くまで仕事をしている状況である。そのような状態では子どもと向き合う時間がとれないからフォローが必要であると思う。また、不登校の子どもについて、民生委員や福祉職、校長など関係者が集まって、6者面談のようなことをすることがある。10回ほど参加しているが、そのときにスクールカウンセラーは来たことがない。
- 分科会長 資料には、スクールカウンセラー連絡会が年3回と記載されているが、これはどういうものか。
- 指導室 スクールカウンセラーのみが集まる会議である。また、スクールカウンセラーの多くは、週1回で他校とかけもちしているため、地域の面談とは時間が合わず、行けないことが多い。
- 分科会長 それも組み込めばよいのではないか。
- 指導室 そのような地域の会合にスクールカウンセラーが行っているとい

う事例も聞いている。

A委員  
指導室 スクールカウンセラーは、不登校の子ども全員と会っているのか。家庭から出ることができない子どもとは会えない場合もある。その際には、電話で話すなど、少しずつ会う機会につなげている。

A委員  
指導室 スクールカウンセラーも人によって、能力の差が激しいときく。そのような話は聞いているが、それによって給料を上げ下げできる訳ではない。

E委員  
指導室 保田しおさい学校のスクールカウンセラーは、常任にできないのか。

指導室 すごくお金がかかってしまう。臨床心理士の資格をもった人がなかなかいない。希望としては非常勤職員である。

B委員  
指導室 今後の方向性には「拡大」と記載あるのに、小学校は「現状維持」となっている。問題のある子の低年齢化が進んでいる。特に中学校にあがる前の対応が必要なのではないか。

指導室 小学校は、担任制で一日ずっと子どものそばにいるが、中学校は、教科制となり、子ども一人ひとりをしっかりみることが難しい状況である。総合教育センターなどでの教育相談や土曜日に相談できる体制など学校以外でも拡大していきたいと考えている。

B委員  
指導室 担任制であっても、担任と合わない子もいる。親にも話せない子もいるだろう。担任ではない他の人の目も必要である。

A委員  
指導室 高校にもスクールカウンセラーはいるのか？

指導室 都立高校は、都でやっている。

D委員  
指導室 近隣の区と比べるとどうか。

指導室 平成24年度の数字であるが、不登校の出現率は、小学校では、全国が0.31%、東京都が0.34%、葛飾区は0.32%とほぼ平均であり、中学校では、全国が2.56%、東京都が2.76%、葛飾区は2.26%と平均より少なめではある。

### 3 その他

(事務局より事務連絡)

### 4 閉会